

海外新聞  
壘號

辛未八月朔日



外部文庫  
117  
88  
9



117  
88  
9



海峽新聞五十一号

千八百七十一年第六月三十日 我五月十三日 桑西

斯哥刊行每週新聞ヨリ抄譯ス

ヘリゴランド島ノ事ニ付キ英日ノ議論

伯<sup>リ</sup><sup>ゴ</sup>ヨリヘラルド新聞會社ヘノ報告ニ依ルニ

ヘリゴランド島ヲ日國ヘ讓受ク可キ旨ヲビス

タルク氏ヨリ英國政府ヘ需要アリシトノ事ナ

ルカ右會社ニテハ其報告ノ虛實ヲ篤ト信セサ

ル中ニ又日國ノ北部ヨリシテ此事ニ宜シク注

海峽新聞

五十一

一

意センヲラビスマルク氏ニ乞ヘリトノ説アル  
 ヲ以テ愈々其需要アリシトノ確實ナルニ必セリ  
 トナリ  
 日國ノ新聞紙ニモ亦勉メテ此事件ニ注意ス可  
 キ由ヲビスマルク氏ニ勸説シタリシトナリ  
 現今此島ヲ日國ヨリ需要ニ及ビシ以前已ニ倫  
 敦新聞ニ英國ニテ北海ニ船隊ヲ備ルニハ此島  
 ヲ以テ最モ便勝ノ良港ト爲シ且英國ノ之ヲ領  
 スルヲ以テ北海中ニ雄等シ首長トナリテ日國

ノ兵ヲ畏縮スルニ及バザルノヲ述ヘタリ  
 同新聞ニ日國ノ需要ヲ拒絕シテ曰ク日國ノ此  
 島ヲ要スル聊カ道理有ル可ケレト亦英國ニ於  
 テモ之ヲ保有スルノ權有リトゾ○英國外務執  
 政ヲールクラングヰル氏ヨリ日ヘノ答ニヘリテ  
 ランドノ需要ヲ更ニ採用セザリシトノ昔ハ國  
 論ニ循フ所ナル可シト  
 ヘリゴランドハ北海中ノ小島ニシテエルブ河  
 ロヨリ三十五里東西半里ニ充タズ人口僅ニ二

千三百人ナリ此島ノ名義ノ由来マ馬語ヨリ出  
ル所ニシテ其地ト云ル意ナリシトゾ去千七百  
十四年迄スレスウクホルスタイント云フ公国  
ノ部分ナリシガ此歳ニ噠国ノ有トナリ其後千  
八百七年ニ至リ英国水師提督ガムビルノ指揮  
セシ水軍那破崙ノ已ニ先テ噠馬船隊ヲ掠取セ  
ンヲ恐レ第一ニ此島ヲ兼取り其ヨリコツペ  
ンヘエゲンニ向テ爆撃シ噠国ノ船隊ヲ尽ク奪  
取リタリ同十四年ニ至リキール噠国ノ條約ヲテ

英國改メテ之ヲ噠国ヨリ譲リ受ケ其後遂ニ所  
領トシ総裁一人議員二十四人ニテ之ヲ管治セ  
リ同國政府此島ノ入費一ケ年九ソ四千五百元  
ナリ又此島ノ輸出輸入昨年ノ書上ケ高輸出二  
千八百四十ポント輸入五百四ポントナリ此地  
ノ住民多クハ漁獵ヲ以テ生活ヲ為セシガ政府  
ヨリ別段運上ヲ取立ル等ノヲ無シ故ニ平常改  
府ニ利スル所少ナレト雖氏一旦外國トノ戦争  
起リシ時ハ之レヲ以テ緊要ノ地トス○元來此

島ノ人種ハハノオブルノ中フリイスラントト  
云ヘル土地アリテ此處ノ住民ヲ往昔フリシア  
ンスト呼ビタリシガ之レヨリ合レタル者ニシ  
テ常ニフリシヤンスノ土音ヲ以テ説話セリ礼  
拜其外宗旨ノ事務ニ於テハ総シテ日耳曼語ヲ  
用ヒ學校ニテモ專ラ日語ヲ學レトナリ近年ハ  
數度旅人ノ此島へ來往スルコトナリタリ借日  
國需要ハ起リタル由縁ハ此地日國附庸ノ一部  
ヲ為シタルト外國ニテ之レヲ有スル時ハ戰爭

ノ時敵兵此處ニ拠リ其進退自由ヲ得ルヲ以テ  
大ニ日國船隊ノ妨碍ト為ルトニ依レリ既ニ日  
人ノ去戰爭ノ時仙國斯ノ如キ所為ニ及ヒ其船  
隊此地ニ占據シハムブルグヲ取圍ミタルカ其  
當時ノ苦情ヲ今猶述唱ヘシトナリ復タ英國ヨ  
リノ答ヘニ去ル千八百六十四年ノ戰爭後スレ  
スウ<sup>#</sup>グ及ヒホルスタインノ二部日國ノ手ニ移  
リシト雖モ其時ヘリゴラントノ事ニ付キテノ  
論議更ニ之無キヲ以テ今日ニ至リ英國ニテ之

ヲ讓ルノ理無ク只自國ノ利益ヲ計ルノミナリ  
ト  
右島讓與ノ事件ハ英國ノ為ニハ實ニ容易ナラ  
ザル事トス其故ハ斯ル需要ヲ一旦許スアレ  
バル後余國ノ求需ヲモ英國ニテ拒ムノ術無ル  
可シ及令ハ西班牙ニテジブラルクルヲ要ムン  
ニハ之ヲ渡サザルヲ得ズ又以太利ニテ其國ノ  
地ヲ十分合併セントシテモルタ島ヲ要スル時  
ハ英人此地ヲ退去サルヲ得ス然ルニ英國ニテ

此等ノ需要ヲ許シ終ニ其威勢ヲ失フニ至ルノ  
處置ヲ為ス可キヤ否是衆人ノ大ニ注意ス可キ  
所ナリ  
巴勒ノ一隅ブルニ於テ或夜ノ有様實ニ  
驚歎ス可キナリ此地ニ加非店アリ之ヲ以テ傷  
人ノ療院ト為シ此處ニテ死去シタル者ハ其側  
ノ戲場ハ運ヒ其前面ノ大地へ轉シ置キ積屍累  
々トシテ丘ヲナセシモ其時一揆党ノ内誰カ一  
人之ニ配意スルノ暇無ク日ヲ経テ後ニ至リ恰

モ屠人ノ死豚ヲ肩担セル如ク各死人ヲ肩ニ荷  
ヒテ之ヲ車ニ積ミ込ミタリ此中已ニ腐敗シタ  
ル者アリテ其臭氣鼻ヲ突チタリ思フニ以前此  
等ノ者モ此加非店ニ已等ノ妻女ヲ伴ヒ来リテ  
飲食セシ者モ有ル可キガ今此体トナリ此処彼  
処ニ取散シタル食糧椅子其外種々ノ品物ノ中  
ニ棄ラル、ハ実ニ哀ム可キニ堪タリ  
右ベルビル療院へハ旅人足ヲ留ムルニ忍バサ  
リシトノ事ヲ以テモ官軍此地ノ住民へ對シテ

殊ニ殘刻ノ所爲ニ及ヒシヲ見ルニ足ル可シ○  
官軍一揆党ノ傷人ト見レハ遁サス之レヲ殺戮  
シ若シ之レヲ憐恤スル者有ル時ハ同意ノ者ト  
シテ之レヲ殺シタリト豈ニ殘忍ノ所爲ニアラ  
スヤ  
又巴勒ノ街衢ニテ濫殺セラレタル者ノ死体モ  
實ニ夥多ニシテ後ニハ人之ヲ見テ散テ異トセ  
サルニ至レリ殊ニ大戦争ノ畢リタル地ノ近傍  
多クハ街衢ノ角隅ニ死体累々タリ其中ニハ恐

ル可キ創口ヲ半ハ布片ニテ包ミタルアリ又ハ  
 行人ノ樹枝ヲ以テ僅カニ一部ヲ覆ヒタルアリ  
 斯ク濫殺ノ始末ハ戦争ノ後一揆党市街ノ家中  
 ニ伏匿シ居テ窗隙或ハ戸ロヨリ多ク兵士ヲ銃  
 殺シタリシニ依リ官兵其所為ヲ大ニ憤リ之レ  
 カ報イトシテ殘酷ノ所為ニ及ヒ士官之レヲ制  
 禦スルノ法方モ無リシトナリ  
 又ペールラセースノ墓所モ人ヲシテ悚然戰慄  
 ス可キノ景況ナリ蓋墓碑ハ彈丸ノ為ニ打崩サ

レ棺槨モ暴露破壊シテ死骸諸方ニ散乱シ其數  
 屈指スルニ勝ヘス其中ニ婦人ノ屍多ク有タル  
 カ石灰ニテ之レヲ覆ヒタリ

前ニ巴勒ヲ出立シタル有名ノ医師トフランシ  
 スク、サルセイナル者トノ談話アリ右医師ノ説  
 ニ巴勒ノ形勢ヲ考察スルニ一揆党結尾ノ敗走  
 ニ至ル迄ノ驚歎ス可キ騷擾ニ及ヘル原因ノ一  
 ハ往ニ府民敵兵ニ取り囲マレタル時食料乏シ  
 ク殆ント餓死セントシタルニ付キ精神次第ニ



動乱シタルニアリト蓋シ第三月十八日我二月  
ニ一揆ヲ起セル時ヨリ心中已ニ煩熱シ頭腦蒸  
騰シテ癲狂ノ病ニ至レリ是レ中古ノ醫書ニ例  
多カリシ事ニテ斯ル時ニ臨ミテ婦人ハ却テ男  
子ヨリモ勇悍ニシテ畏ル、一無キ者ナリ其故  
ハ全ク婦人ノ性質男子ヨリ心経発達頭腦軟弱  
ニシテ感覺速ニ且銳ケレハナリ故ニ性命ヲ輕  
シ危難ヲ犯ス<sup>一</sup>アリ且婦人戦ニ臨ミテモ何等  
ノ為タルヲ自ラ知ラス只一途ニ常ニ尊奉シタ

ル宗旨ニ固執シテ狂スルカ如クナルニ至レリ  
男子ハ之レニ反シ初メ血氣ニ任セ銳槍ノ銳鋒ニ  
向フト雖此時ヲ出スレテ遂ニ匍匐シテ助命ヲ  
乞ニ及ヘリ是又狂人タルニ過キサルナリ  
巴勒ニテ数多ノ牆壁ヲ手強ク防禦シタル数例  
アリ已ニ五人ノ婦人ニテ一牆壁ヲ守リ敵ノ搥  
勢ヲ数時ノ間支持スルニ至レリ又ブルアルド  
イタリヤン街ニ在ルジロウノ傍ナル牆壁ヲ一  
人ニテ久シク固持シ六挺ノ雷銃ヲハ交發放シ

タルト実ニ耳目ヲ驚ス可キ有様ナリ其時右ノ  
守兵ハ彈藥ノ尽タルヲ以テ止ムヲ得ス退去シ  
タリシガ收手ニモ守兵ノ寡弱ヲ更ニ知ルト無  
リシト

官軍ノ將ボリガク氏一揆党ニ銃殺セラレタル  
ハ実ニ惋嗟ス可キ事トス此人往ニ普軍巴勒環  
攻ノ際ニ臨ンテ希世ノ勇氣ヲ現シタルニ於テ  
昔時高名ナル武將ト共ニ稱セラレタリ普軍ノ  
之ヲ恐怖スルト最モ甚シカリシ元來ポリサツ

クハ著述ノ書ニ依リテ其聲名ヲ高フセシカ巴  
勒ニテハ実ニ言行一致シタル者ト為シテ之ヲ  
賛稱セサルハ無シ

官軍巴勒打入ノ頃一揆ノ殘党ニハ窗撃ト唱ヘ  
テ市屋ニ潜伏シ其家ノ窗ヨリ乱發ヲ為セシカ  
殊ニ婦人此所業ヲ為ス者多シトス官軍此者ヲ  
見出シ次第ニ無慈悲ニ之ヲ殺戮シタリ  
仏国ニハ曾テヨリブ井ヅエンジルト号シ自ラ好  
ンテ兵隊トナリタル婦人ノ一隊多ク有リシガ

此度右ノ婦人一揆党ト同シ衣服ヲ着シタルト  
彼等ノ事務ヲ助タルトノ罪科ノミニテ悉ク銃  
殺セラレタルハ實ニ哀憐ス可キトス  
許多ノ家屋ニ放火スル目的ニテ石腦油ヲ搬運  
シタル婦人ハ直千ニ銃殺セラレタリ  
第六月廿七日我五月十日伯美ヨリ日耳曼帝ウヰルレ  
ム日国惣軍ノ中ヨリ仙国在番ノ兵隊ト称シテ  
数多ノ軍隊ヲ定ヌマントウフルヲ以テ之カ惣  
督ト為シタリ

同月同日フロレンスヨリ今朝以太利王ブイクト  
ル、エマニユエルナブルス那不里ニ向ツテ同府ヲ發足シ此  
地ヨリシテ来ル七月二日我五月十五日ニ羅馬ノ都ニ  
到ル可シト

日國スブレインベルグニ住居シタル或ル一人ノ  
婦人ヨリ近頃加利福尼勞役會館管事局へ贈リ  
タル書状ノ趣意ニ當時日國ノ景况ヲ見ルニ婦  
人生計ノ道已ニ尽クルニ至レリ其故ハ去ル戦  
争ニテ許多ノ製造所各閉戸休業ヲ為シ且数万

ノ男子戦死シ寡婦トナリタル者実ニ屈指ニ勝  
ヘズ此戦争実ニ婦人等ノ為メニ意外ノ苦難ト  
ナリテ殆ト其生路ヲ得難キニ至レリ右婦人之ヲ  
憂ヘ寡婦等ヲ悉ク米ノ加利福尼ニ移シテ国家  
并ニ當人ノ為メ爾後ノ幸福ヲ得セシメンコトヲ欲セリ蓋  
右婦人既ニ二十一年ノ間亞墨利加ニ在リテ其  
中五ヶ年程加利福尼ニ居住シタルヲ以テ此地ノ  
事情ヲ洞知シタレハ寡婦等事業ヲ為スニハ適  
宜ノ地ニシテ必ス大成センコトヲ期シタリ

千八百三十七年ニ英國女王維多利亞即位ノ時  
各國ニ帝王タリシ人々ハ當今既ニ死シ或ハ國  
ヲ追ハレタリ夫ノ魯ノニコラース帝仏ノルイ  
ヒリッブ王墺ノヘルヂナンド帝倭ノフレデリック  
ウアルレム王瑞典ノチャールスジョン王比利時ノレ  
ヲボルド王荷蘭ノウアルレム王西治里ノヘルヂ  
ナンド王巴維利亞ノ路陽王葡萄牙ノ馮利女王  
土耳其ノマムウド帝教皇グレゴリイ及ヒ其他  
ノ君主皆既ニ黄泉ノ客トナレリ今猶存生シテ

位ニ在ル君主ハ独リ巴西ノトンペードロ帝一人ニ過キヌ西班牙ノ女王イサベルラハ生存ス  
ト雖モ既ニ其國ヲ追ハレ其位ヲ失ヒタリ○又  
維多利亞即位以後各國ノ隆替變革ヲ尋ルニ羅  
馬教皇ハ全其世權ヲ失ヒ以太利ノ小國合シテ  
一大國トナリ日耳曼會盟分裂シ奧地利ハ匈  
生ニ破ラレテ日國聯邦中ヨリ除斥セラレ匈國  
大ニ佛ヲ敗テ拿破崙三世位ヲ退ケラレ佛國一  
變シテ共和政治トナリ匈國王日耳曼帝位ヲ僞

西班牙一度共和政治トナリテ後以太利王子ヲ  
迎テ王ト為シ又英國ノ政法大ニ變シ亞細亞洲  
ニテハ支那日本万国ト通信互市ヲ開ニ至リ亞  
米利加州ニテハ合衆國大ニ墨是可ヲ破リ其後  
合衆國ニ南北部ノ大戦起リ其戦終テ後奴隸ヲ  
廢シ又世ニ傳信線、鉄道、蒸氣船等ノ大發明アリ  
斯ノ五十年内ニ世界ノ形勢一變シ人ノ耳目ヲ一  
新スルニ至ル等ノ大事件萃テ數フルニ違アラ  
サラシム嗚呼亦後亦四五十年ヲ經ハ如何ノ大

海外新聞  
二  
一  
変革ニ至ル可キヤ世上ノ推遷進歩實ニ驚クニ  
堪ヘタリト謂フ可キナリ

海外新聞五十一号畢

御用御書物所

東京本町四丁目

紀伊國屋源兵衛

